



# くぬぎ通信



2019年11月発行 第344号  
市原第7団ボーイ隊長 土橋一弘  
2019年11月度テーマ ; 友情深め

## 10月度 隊活動

先月は多くの活動を行うことができました。

①「清掃奉仕」は上総いちほら国府祭りの会場でゴミ拾いを行いました。演舞するチームは北海道など全国から参加している方々があり、地元市原のお祭りがきれいな会場であることを見せられた活動は、やりがいがあったものではないでしょうか。

②「サイクリング」は成田空港に隣接する芝山千代田駅から野営場までの約56kmを走破しました。上り下り坂の多いルートでしたが、ゴールまで元気に帰ってきたスカウトたちの体力には驚かされました。

③「講話会(仏教)」では市原市牛久に近い「曹洞宗 永徳寺」にて座禅や写経を行いました。元スカウトの住職からは「仏さまは自分自身の中にある」などのお話をいただき、写経では自分以外への願い「願書」を書きました。



## スカウト諸君へ

### 11月の隊活動予定

テーマ : 友情深め  
 活動目標 : 自ら考え判断し決断する力を養う。  
 プログラム : キャンプ  
 ソング : いやさかわれらP36、愉快的スカウトP74  
 当番班 : バッファロー班

日時	場所	集会	内容
5 (火)	姉崎公民館	班長会議、班長訓練	キャンプ実施内容検討等
未定	未定	班集会	
17 (日)	調整中	班活動	ユニセフ募金
23 (土) - 24 (日)	野営場	隊集会	キャンプ(木工、野外料理)

## 保護者の皆様へ ~良い関係~

お話が苦手なコミュニケーションが不足していると悩み・自覚している隊長ですが、スカウトたちには隊長が望むものや姿勢を明確に伝え、信頼関係を築くことが必要であり、少しづつでも努力して行きます。スカウトとのコミュニケーションがとれていけば、隊長へも求めるものを伝えてくれるようになり、成長・自立に繋がると思うのです。

スカウトとの関係だけでなく、引き続き保護者とも良い関係を作っていきたい、スカウトとの活動改善のために提案や厳しい意見であっても、お話しできたらと思います。

・・・キャンプの夜、美味しい野外料理の夕食会でしましょうか。

## 「スカウト運動」 E.E.REYNOLDS より(一部加筆修正要約)

### ~ブラウンシー島~

前回記述した1907年夏のブラウンシー島での実験キャンプについて紹介する。ブラウンシー島はイギリス本島南部のプール湾内に浮かぶ東西2kmほどの小島である。参加は地域や階級の異なる少年たちが、4つの班に各5名(合計20名)が集い、当初1週間の予定を延長し11泊12日で行われた。キャンプのきっかけは、イギリス出版界の立役者であるアーサー・ピアソンとの議論の中で、実験キャンプ及びイギリス全土の説明旅行が行われることになったもの。訓練計画はウッドクラフト、観察、規律、健康と忍耐、騎士道、救命、愛国心等であると保護者に説明し、スカウトには参加前までに覚えるロープ結びの課題を与えた。この時点から日々のプログラムや、そなえよつねに、号笛合図(シマカモシカの角)、対班ゲーム(名誉にかけてルール厳守)で学ぶなど基本的な部分は同じであった。実験キャンプにより、非常に対照的な社会的状態の少年たちが容易に親しくなったこと。また、キャンプファイヤーの夜話の効果も認識し、スカウトのおきてに結びついている。「スカウトは、どんな国家、階級、教義に属するかに関係なく、全ての人の友であり、あらゆるスカウトの兄弟である。」

